

# Message

—先輩からのメッセージ—

インタビュー動画



TAKASHIGE  
TAKEGAWA

庄原市立庄原中学校

竹川 天成 教諭



RYOKO  
ABE

庄原市立庄原中学校

安部 涼子 教諭

## Q&A

Q 先生になって、見付けたやりがいは？

A (竹川教諭) 教えることが好きなので、数学の授業が終わってから、生徒が一人でも「分かった」と言ってくれた時にやりがいを感じる。また、生徒が集まってきて色々話をする時にもやりがいを感じる。その中でも1番やりがいを感じたのは、臨時的任用で勤務していた時に、卒業式を終えてから、生徒が巣立っていく姿を見て「やってよかったな」と感じた。生徒たちが思春期から大人になっていき、心身ともに、どんどん成長していく姿を見られるのも教師ならではの醍醐味だと思っている。

(安部教諭) 例えば、国語の作文の授業の時、自分なりに色々工夫して授業をしているけど、やはり作文が苦手な生徒もいる。その生徒が、前回書いた時より一行多く書けたとか、ちゃんと自分の言葉にして書けたとか、そういう小さいことでも、生徒の成長を見ると「やってよかったな」と、やりがいを感じる。

Q 竹川先生から、これから採用試験を受ける人にメッセージは？

A (竹川教諭) 「自分の思っている以上にしんどいよ」というのを言ってあげたい。「授業だけじゃないよ、生徒指導もあるし、色んなことがあるよ」本当にそこが一番伝えたい。また、本当に強い気持ちがないとできない仕事だということは言っておきたい。

Q ちなみにその強い思いは、どこから生み出している？

A (竹川教諭) やはり子供の成長を側で感じる。子供が成長していく姿を見られて、僕も元気を貰い、感動する部分もある。やりがいと一緒に、それが強い思いにつながる。最初は大変だと思うけど、もっと大きな喜びで必ず返ってくるものがあるということ。

Q 安部先生から、これから採用試験を受ける人にメッセージは？

A (安部教諭) 初めてだから、出来ないのが当たり前。最初は出来ないことばかりで、周りの先生に迷惑をかけてしまっただけで申し訳ないと思ったが、そこで挫折して負けてしまわずに、出来るようになるためにはどうすればいいか考えた。そこで周りの先生を見て、生徒指導だったらこの先生、電話で保護者の方と対応する方法だったらこの先生、など授業の進め方にしても、色んな先生のいいところを取り入れ、どんどん吸収するということにした。とにかくいろいろの人に頼ってほしい。

Q 同じ学校に同期採用の仲間がいる良さは？

A (安部教諭) 例えば、周りの先生にちょっと聞きづらいなというときに、竹川先生に頼って聞いている。

Q 2人は庄原市出身ではないが、庄原市での暮らしはどう？

A (竹川教諭・安部教諭) 住みやすい。

(安部教諭) 私は都会のがやがやしているのが苦手、落ち着いてるところが、過ごしやすい。

(竹川教諭) 庄原市の皆さんは人柄が温かい。生徒たちも落ち着いている。あとは、比婆牛がおいしい。(笑)

MEGUMI  
KONOBE



神石高原町立来見小学校

高延 恵 指導教諭

## Q&A

Q 先生になろうと思ったきっかけは？

A 小学校の先生をしている父の経験談を聞き、小学校の先生は、勉強を教えるだけではないのだなと感じ興味をもった。

Q 先生になってから気付かされたことは？

A 小規模の初任校では、学級の子供達は真面目で、課題もなく、特に教えることはないと思っていた。しかし、しばらくすると、隣の学級の子供達と、授業に対する目の輝きや、発言が違っていることに気付いた。最初は、それが自分のせいだとは分からなかった。

Q 自分が原因だということに、どうやって気付いた？

A 元教師の父に話をすると、「それは、あなたのせいだ」と一言、言われた。そこで自分と先輩先生方の指導について比較してみたところ明らかな違いに気付いた。私は、学習内容を進めていくことに気を取られていたが、先輩の先生方は、いかに子供達に考えさせるかにこだわって工夫されていた。その気づきをきっかけに、自分の指導を変えていくことができた。

Q 教師の一番のやりがいは？

A 若い頃には、私の指導によって、子供達ができるようになることが大きな喜びだった。最近は、教え込むのではなく、仕掛けや工夫をしておいて、子供達が色々な学習活動をしたり、子供達同士で学習を深め合ったりしながら、新たなことを発見し考えを深めていく、そういう授業ができた時に「やった」と思うようになった。

Q 児童と向き合う上で、一番大事にしていることは？

A とにかく考えさせることを大事にしている。子供達自身が自分で何かを発見したり、違いに気付いたりできるように、提示する資料を工夫している。

Q 保護者の方への対応についてのアドバイスは？

A 保護者の方は自分のお子さんを本当に大事に思っておられる。自分よりも大事な存在ができることで、思いも深くなるし、願いも大きくなる。だから、たとえ自分の考えと違っていても、保護者の思いや願いをしっかりと聞いて、一旦、受けとめ、その上で、お子さんの成長や将来と一緒に考えながら、教育の方向性を共有できれば一番よいと思う。

MAIO  
YAMAGUCHI



福山明玉台高等学校

山口 茉生央 教諭

## Q&A

Q 先生になって新鮮に感じたことは？

A 学校の会議で、先生方が課題を洗い出し、絞って、改善点を提案しあっている姿を見て、「私、社会人になったんだな〜」と実感した。

Q 一番の新人ですが、年齢、キャリアの違う先生方の会議の中でも意見は言える？

A 言える…、時と場合によりますが。(笑)

Q 生徒との対応で感じたギャップは？

A 生徒との距離感の取り方、関係の築き方に不安があったが、私の想像とは違い、生徒が「先生、先生」と近くに寄って来てくれるので安心した。自分も学生時代、歩み寄ってくださる先生の方が近付きやすかったのだから、自分から生徒に心を開くようにしている。まずは自分から寄って行って、「私はこういう人だよ」というところを見せないと互いに理解し合えないと思っている。

Q 一つの授業に対して、どのぐらい準備する？

A 余裕がある時は、1カ月くらい前から考えている。余裕がない時でも、せめて1週間前には、指導する内容をしっかりと把握するように努めている。

Q プライベートはどう？

A 週に2回は必ず、バドミントンの練習に行くようにしている。もちろん、行事や学校の予定によっては全然行けない時期もあるが、できるだけ自分の時間を作るということは意識している。

Q 授業をする際、心がけていることは？

A できるだけ印象に残る授業にするために、生徒にとって身近なニュースや話題を授業の最初にもってきて、それを最後にうまくつなげようと努力している。保健の授業の内容の中には、生徒が興味を持ちにくい内容もある。だからこそ、その授業内容の何か一つでもいいから、大事な時に思い出してくれたらと考えている。また、保健の内容には答えが決まっていないものが多く、その子の中の価値観を広げていくのが授業だと思っている。いろんな答えや考え方があってもいいかなと思っているので、保健の授業を通して、生徒にお互いに自分の価値観を押し付けず人と共有できる術を身に付けさせたい。